

週刊 女川湾海況速報 (No.49)

発行：東北大学女川フィールドセンター

東北大学マリンサイエンス復興支援室

6 月 24 日から 28 日の小乗南防波堤定点と St.1 の海洋観測情報

観測点



小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：先週と比較して全層で水温は上昇したが、塩分は同程度の値を維持。経時的には水温が 26 日に全層で上昇し、28 日には表層（0m）で下降したが、底層（6m）では上昇。塩分は 26 日と 28 日に表層でのみ上昇。26 日と 28 日の水温と塩分の変化は外洋水の影響と推定。

水深 [m]	6月24日 (月)	6月26日 (水)	6月27日 (木)	6月28日 (金)
0	16.7 (31.9)	17.8 (32.0)	17.5 (31.9)	16.5 (32.5)
6	12.8 (32.8)	13.9 (32.8)	13.0 (32.9)	15.7 (32.9)

水温の単位は℃。カッコ内の塩分の単位は PSU (実用塩分単位)。*24 日と 26 日は水深 5m のデータを使用。

②濁度：先週と比較して全層で上昇。経時的には 26 日と 28 日に全層で上昇。特に 26 日の底層での上昇が顕著。（単位は FTU）

水深 [m]	6月24日 (月)	6月26日 (水)	6月27日 (木)	6月28日 (金)
0	0.5	0.6	0.7	1.3
6	0.8	7.7	1.2	1.6

③溶存酸素：先々週と比較して全層で上昇し、8~9mg/l 台を示した。経時的には期間を通じて全層で下降傾向にあった。表層では 26 日と 28 日に一旦下降したのに対し、底層では期間を通じて徐々に下降。

水深 [m]	6月24日 (月)	6月26日 (水)	6月27日 (木)	6月28日 (金)
0	9.2	8.8	8.9	8.5
6	9.6	9.5	9.3	8.9

単位は mg/l。水産用水基準（水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値）：4.3mg/l 以上。

St.1 の結果

水温、塩分はそれぞれ 10.3~16.4℃、32.0~33.2PSU の範囲にあり、水深 5m と 10m の水温勾配（3.9℃/5m）がさらに発達。濁度は 0.9~1.4FTU の範囲にあり、底層（18m）で最大。溶存酸素は 8.4~9.8mg/l の範囲にあり、底層で最小。

6 月 25 日

水深 [m]	水温 [℃]	塩分 [PSU]	濁度 [FTU]	溶存酸素 [mg/l]
0	16.4	32.0	1.0	9.3
5	12.5	33.0	0.9	9.8
10	11.2	33.1	1.3	9.3
15	10.6	33.2	0.9	9.3
18	10.3	33.2	1.4	8.4

本データの利用については、
東北大学マリンサイエンス復興支援室

Tel.: 022-717-8827

Fax: 022-717-8828

E-mail:

agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp

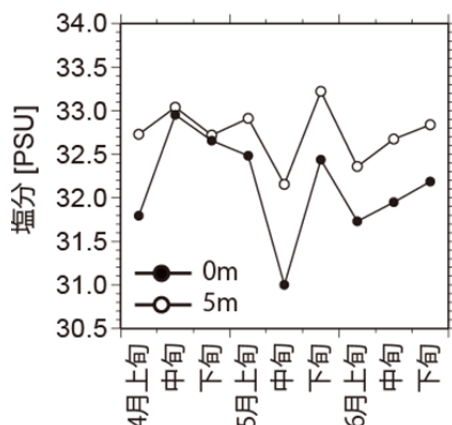
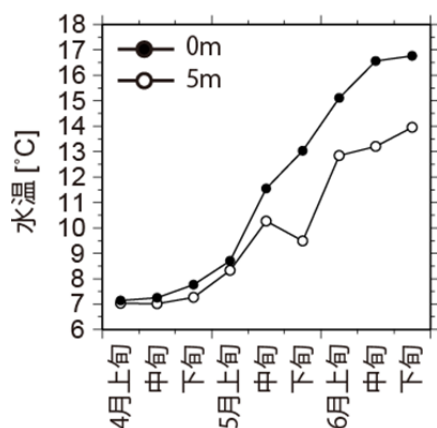
までお問い合わせください。

週刊女川海況速報の付録として、小乗防波堤定点の 3 ヶ月毎の海況情報をお知らせいたします。

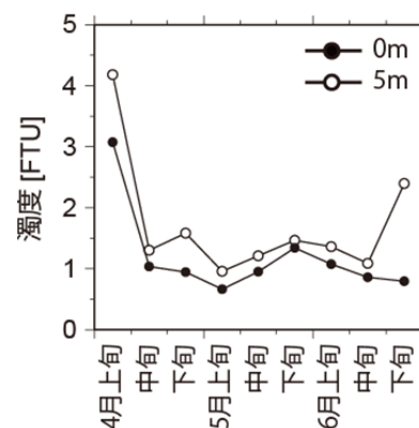
2013 年 4 月から 6 月の小乗南防波堤定点の海況情報

小乗南防波堤定点の結果

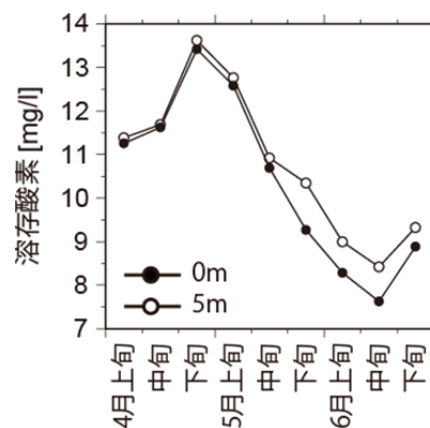
①水温・塩分：水温、塩分はそれぞれ 7.0～16.8℃、31.0～33.2PSU の範囲にあった。水温は期間を通じて全層で上昇傾向にあったが、底層（5m）では 5 月下旬に一旦下降。鉛直的には 5 月中旬から水温躍層が形成され始め、5 月下旬にはそれが最も発達した（3.6℃/5m）。一方、塩分は期間を通じて下降傾向にあった。表層では 4 月上旬と 5 月上旬～中旬に 32PSU 以下になったが、4 月中旬と 5 月下旬には全層で一旦上昇した。4 月上旬と 5 月上旬～中旬の塩分下降は湾外から侵入した低塩分水の影響と推定。4 月中旬の塩分上昇は親潮水、5 月下旬の水温下降（底層）と塩分上昇は変質した親潮水の影響と推定。



②濁度：濁度は 0.7～4.2FTU の範囲にあり、表層と比べて底層で高い値を示した。表層では 4 月上旬と 6 月下旬に高い値を示し、特に 4 月上旬は期間を通じての最大値（4.2FTU）を示した。底層では表層と同様に 4 月上旬に最大値（3.1FTU）を示した。4 月中旬から 6 月中旬にかけては全層で 0.7～1.6FTU の間で推移した。



③溶存酸素：溶存酸素は 7.6～13.6mg/l の範囲にあり、期間を通じて全層で下降傾向にあった。経時的には表層と底層で同期して変動し、4 月下旬に最大値、6 月中旬に最小値を示した。鉛直的には、期間を通じて表層よりも底層の方が高く、5 月下旬以降にその差（～0.75mg/l）が増加した。



水産用水基準（水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値）：4.3mg/l 以上。